

呉駅周辺地域総合開発事業推進会議 第1回会議 摘録

1 日 時 令和3年9月10日（金）10時～

2 場 所 Web会議

3 概要・骨子

【市長挨拶】

皆さん、おはようございます。呉市長の新原でございます。皆様方、今こうやって顔を拝見いたしますと、呉市が大変お世話になっている方ばかりでございます。日ごろから呉市をいろんな形で助けていただきまして、本当にありがとうございます。

今日は呉駅周辺地域総合開発事業推進会議の第1回でございますが、皆様方には委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。それから、きょうは新型コロナウイルスの影響でWeb形式になりましたけれども、貴重な時間を割いてこの会議にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

思い返してみますと、きょうもご参加いただいております東京大学大学院の羽藤先生を座長として、平成30年5月に懇談会を発足していただきました。そして翌年3月にはご提言をいただき、それから引き続いて基本計画の検討会、そして事業計画の検討会を進めていただきまして、今年4月には、おかげさまで国道31号呉駅交通ターミナル整備事業を事業化していただきました。国土交通省の中国地方整備局を始め、関係の皆様に変なご尽力をいただきまして感謝をしております。

私も呉市といたしましても、来月10月には民間の事業協力者を選定するためのプロポーザルを行うべく、現在、準備を進めております。そして、この民間の事業協力者の方々のご提案、そして、本日のこの推進会議で皆様からご意見をいただきまして、具体的な検討を進めさせていただきたいと考えております。

そういうことでございますので、是非、本日は、幅広く、様々なご意見をいただきますよう期待をしております。そのお願いを申し上げまして、ご挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくご議論をお願いいたします。ありがとうございます。

【委員等紹介】（省略）

【呉駅周辺地域総合開発事業推進会議 設立趣意について】

〔 資料2により，事務局から説明 〕

【呉駅周辺地域総合開発事業推進会議 開催要領】

〔 資料3に記載のとおり，全委員が了解。 〕

【座長の選出】

〔 事務局からの提案により，羽藤 英二 委員 を選出 〕

【議題1～3 事務局説明】

【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

1 これまでの経緯

- 今後に向けては，やはり市と国との共同事業ということになる。それぞれがこういう機能は入れていくべきだということをおの場でも繰り返し議論してきた。そうした機能面，あるいはこういう空間をつくるべきだということを再度，国・市の方々からご確認いただくということが重要なところではないかと思う。

2 事業推進に向けた国・呉市の取組について（令和3年度）

- 呉のバスタは道路行政から見ても交通防災拠点という新しい試みである。バスタ呉ができた後は，この地域全体，鉄道，船も，あるいは一般の人のモビリティのベースとなる交通マネジメントの拠点にもなる。端的に言えば，M a a Sの拠点にもなるという視点が必要である。

- 今回の民間公募は主に造る方だが、整備後に控える、実際にそのデッキ含めた日常の管理運営をするような官民連携の母体もいるのではないか。
- 官で造るエスカレーター・エレベーターの電気代等を民がどこまで負担できるかを占用許可の条件にするという手法もある。
また、官民連携のSPCか、UDCをちゃんとしたお金が扱えるようなUDCにするのか、そういうお金をみんなから薄く集めて管理するエリアマネジメントの手法を大きくするのか、あるいは道路法のコンセッションの方式もある。
最初の民間公募と重複しながらも、さらに大きく広げるということもあるということ、ぜひ認識しておいてほしい。
- 単純に今の交通事業の経営のやり方では、新しいモビリティがカバーできない。バスタ呉は、そういう交通管理のところにも運用を広げ、やっていく必要が出てくる可能性もある。ICT交通マネジメントで、Ma a S拠点をここに置くという、建設、ハード管理、それからソフト管理、マネジメント、これを同じようなメンバーで最終的にはクローズするというのが一番望ましいと思う。
- ハードの建設、管理、施設の管理運営、それから広場の管理運営、いろんな段階で、造った人がその後もフォローしてくれるということを政策的に誘導していくというのがあっていいと思う。

3 今後の進め方について

- 今後、良い提案が多く出され、様々な先進的な機能を盛り込むようになっていくことを期待している。
- 今、呉駅に加盟しているタクシー業者はJRの管理によって円滑な運営が行われている。これから後、その管理がどうなるのか。また、次世代モビリティに関わっていかなければタクシー業界の今後の発展が見込めないため、非常に今回の開発には期待している。
- 関係機関として関わっていくのは、事業協力者が選定される来年度以降になるかと思うが、それまで知識を深めながら、一緒に検討していきたいと思う。

- 今、道路行政が色々と変わっていくタイミングである。新広域道路交通計画を7月に策定したが、その中でもICT計画や防災拠点といったことも位置付けている。今後20年、30年を見据えて、大きな変革をしている状況である。
- まちづくりの観点からも、「造って終わり」ではなく、その後の管理が非常に重要になると思っている。本件では、面積的にはマンションが中心となっている。マンションの再開発では、売って利益を上げて、さよならという事業者が多かったりするが、その後の管理や、呉駅前に責任を持ってくれるような事業者が参画してくれれば良いと思う。
- モビリティという面では、新たなモビリティ、既存のモビリティ（鉄道、バス、タクシー、旅客船）ともに、利用者の方にしっかりと使っていただけることと、持続的に今後長く使っていただけるような持続性があるものという観点が大事ではないかと思う。
- 呉駅の北側を主として計画が具体的に進み、プロポーザルが実施されるが、南側にはショッピングセンター、大和ミュージアム、呉港など重要な拠点があり、そういった面を見据えながらのプロポーザルという点が重要ではないかと思う。
- 管理運営を含めた民間事業者の参画が非常に重要というのは確かにそうである。発注の事例なども提供しながらお手伝いしたいと思う。
- MaaSの拠点になるという発言もあったが、交通事業者のご意見と、市内・市外の拠点等も考えながら、広域の交通拠点となることを大いに期待している。
- 今後、交通ターミナルの詳細設計を進めていく上で、利用者にとって分かりやすく、使いやすい公共交通の整備となるようお願いしたい。具体的には、バスの利用者と鉄道の乗り換えの利便性の向上や、待合室からバス停までの利用しやすい動線の確保。情報発信についても、バスの運行情報だけでなく、他の交通モードを含めた運行情報、乗り継ぎ情報の提供など、乗り継ぎ利便性の向上を検討していただきたい。
- 次世代モビリティの導入は持続可能な地域交通の維持を図る上で必要であり、今後は地域の特性や利用者の移動ニーズに応じ、行政や各交通手段が連携していくことが大切ではないかと考えている。

- 新たな取組みも当然必要ではあるが、このまちは非常に高齢者・交通弱者も多いので、そうした目線を持って開発を進めていただきたい。
- このまちには、島や山、色々に行くところは多くあるが、何もなくゆっくりと時間を過ごせる空間というのが、なかなかない。にぎわい、交流の新たな拠点となることを期待している。
- この広場は、市民から愛されるということが、一番の目標だと思う。日々、老若男女問わず、ここになんとか集まってくる。集まってくれば、周辺が、まちが生き生きする。そして結果的に、そこに入っている民間事業者も収益が上がり、それが広場の管理運営の基礎的なファンドにも回っていく。

【散会】